

会長挨拶



伝統と変革 —今と明日のために—

国際ロータリー第2520地区 2021-22年度築館ロータリークラブ
会長 石 沢 賢 士

2019_20会長 三浦和茂会員の年度スローガン「変革・挑戦するロータリー 一時代とともに-」を受け継ぎ今年度のスローガンを決めさせていただきました。

築館RCは1965年2月 初代会長佐藤 潔氏と32名のチャーターメンバーからスタートし2023年には設立60年をむかえます。

国際ロータリーホームページに「カスケードモデル」という言葉がでてきます。その意味は「同じものがいくつも連結された数珠つなぎのような構造」や「連鎖的や段階的に物事が生じる様子」とあります。また、ロータリーの特徴として「リーダーのネットワークへ」クラブの活動、交流イベント、ボランティア活動など、これらすべてが人脈とビジネスネットワークを築く機会となります。海外のクラブも訪問できるので、そのチャンスはさらに広がります。ともあります。

築館クラブ現在は地区のリーダー達の先達が「奉仕の理想」を掲げ繋いできたバトンが今の形です。

50周年記念誌を読み返すとそれぞれの時代にそれぞれの「奉仕」の形があることが分かります。では今出来ること、明日のために出来ることはなんでしょうか。

疫病により新しい生活様式が求められる中、世界のロータリーの出来ること、日本のロータリーの出来ること、2520地区のできること、築館クラブのできること、なにがロータリーに求められているのか恐らくは見当もつかないほど多様な奉仕を求められていると思います。ですがすべての奉仕は1ロータリアンの行動の結果でもあります。

2021_22年度築館クラブは7月から12月の前半は月2回の例会とし、9月にはクラブの大きな事業である高校生模擬面接を実施予定で職業奉仕委員長を中心に年度が始まる前より高校との打ち合わせ等準備いただいております。ぜひ就職希望の高校生の人生の選択の一助になるように会員みなさんのご協力をお願いいたします。

例年12月には次世代リーダー候補の中学生を対象にクラブ・ライラを予定しておりましたが今年度は当初計画には盛り込まず、状況の変化、学校の方針、保護者の理解などを見極めて10月に最終判断をしたいと思います。ライラが開催できない場合は違った形で青少年奉仕に取り組める様 ぜひ会員のみなさまのアイデアをお願いいたします。

会員は入会17年以上が9名、10年未満9名 内5年未満6名 私が入会6年での会長の大役。あらためてロータリーとは築館クラブとはを学ぶ1年になると思います。出席表彰30回前後が5名もいらっしやるので、先輩に導きをいただき、これまでと同じ活動は難しいですが、新しい運営を考え、会員の皆様にお力添えを頂き進めていきたいと思ひます。

1年間どうぞよろしくお願ひいたします。